

# 国立教育政策研究所 幼児教育研究センターについて

平成29年1月16日

国立教育政策研究所  
教育政策・評価研究部長  
(併)幼児教育研究センター長 渡邊 恵子

## 幼児教育研究センター設置の背景

- 海外における幼児教育研究に対する関心の高まり(OECD/ECECネットワーク「OECD保育白書」、Heckman「幼児教育の経済学」)
- 国内の幼児教育政策に関する議論の進展(教育再生実行会議第5次提言、段階的無償化の議論)



エビデンスに基づく政策立案の必要性

「幼児教育に関する調査研究拠点の整備に向けて」  
(文部科学省 幼児教育に関する調査研究拠点の整備に向けた検討会議報告書 平成28年3月)

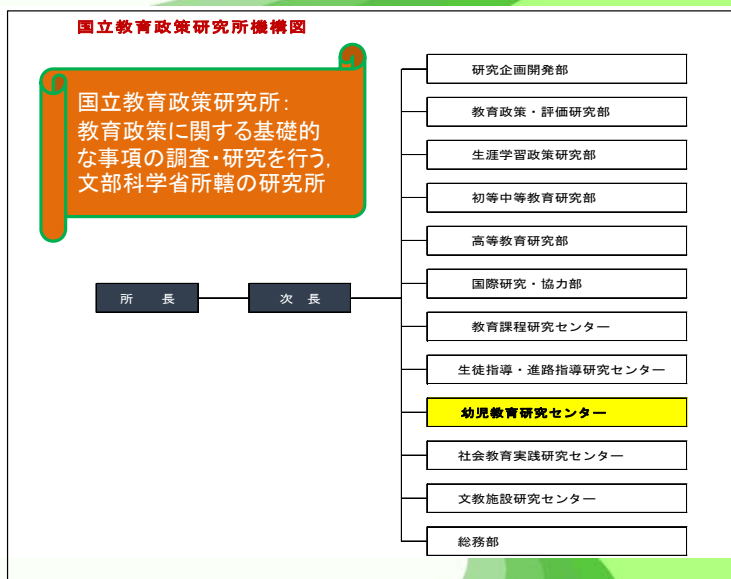
幼児教育に関する国の調査研究拠点の整備が必要

# 幼児教育研究センターの体制

(平成28年4月発足)

- センター長 渡邊 恵子  
研究官 足立 充  
掘越 紀香 他5名  
サポートスタッフ 2名
- 上級フェロー  
無藤隆 白梅学園大学教授  
秋田喜代美 東京大学大学院教授  
神長美津子 國學院大學教授
- 場所  
中央合同庁舎第7号館 東館6階

(平成28年12月現在)



3

# 幼児教育研究センターに求められる役割と活動

幼児教育に関する調査研究

プロジェクト研究  
(幼小接続, 幼児教育の質など)  
国際調査

国の調査研究拠点としての役割

～幼児教育に関する調査研究拠点の整備に向けた検討会議報告～

研究ネットワークの構築

大学  
国際機関  
地方公共団体  
(幼児教育センター等)  
幼稚園・保育所・  
認定こども園  
関係省庁 など

研究成果の普及

シンポジウム  
セミナー  
ホームページ など

4

# 幼児教育研究センターの 活動の概要

## 1. プロジェクト研究

「幼小接続期の育ち・学びと幼児教育の質に関する研究」(平成27～28年度)

## 2. OECD国際幼児教育・保育従事者調査(International ECEC Staff Survey)の実施

## 3. ホームページの充実などによる, 国内外の研究成果の普及

## 4. 研究ネットワークの構築

5

# プロジェクト研究の概要

～幼小接続期の育ち・学びと幼児教育の質に関する研究 (H27～28年度)～

## 研究の目的

- ◆ 幼小接続期(主に5歳児後半から1年生前半)を取り上げ, **幼小接続期カリキュラムの実態を分析**し, 幼小接続期の**育ち・学びを支える力**を捉える手法を検討する。
- ◆ 幼児期の**教育・保育の質を捉えるための評価指標**を検討し, 園内研修の場などで活用することを目指す。

## 研究メンバー

- ◆ 岩立京子(東京学芸大学), 埋橋玲子(同志社女子大学), 佐々木晃(鳴門教育大学附属幼稚園), 益田正子(横浜市立鶴見小学校)等の幼児教育研究者や幼児教育実践者ほか, 文部科学省職員, 国研研究官の23名。

6

# プロジェクト研究のまとめ

～幼小接続期の育ち・学びと幼児教育の質に関する研究（H27～28年度）～

## ◆ 幼小接続期の育ち・学び

1. 先行研究のレビュー（国内・海外）
2. 幼小接続期のカリキュラム

幼小接続期カリキュラム自治体調査の結果分析・実践事例のまとめ など

3. 幼小接続期の育ち・学びを支える力を捉える手法の検討

「育ちと学びを支える力」を捉える質問紙調査（27年度に5園の年長児について園の担任と保護者へアンケート調査を実施。28年度は前年度の対象児が入学した小学校の1年生について学校の担任と保護者へアンケート調査を実施）の結果分析 など

平成28年度末にとりまとめ予定

## ◆ 幼児教育の質

4. 先行研究のレビュー（国内・海外）
5. ECERS3とSSTEWの試行調査

海外の幼児教育の質の評価指標であるECERS3（保育環境評価スケール）とSSTEW（保育プロセスの質評価スケール）を用いて、日本の幼児教育を試行的に評定した結果のまとめ など

6. 海外の指標など
7. 評価指標の考案に向けて

7

# 関連するプロジェクト研究

## 「非認知的（社会情緒的）能力の発達と科学的検討手法についての研究」（H27～28）

- ◆ 乳児期，幼児期，児童期，青年期のそれぞれにおける特徴的な非認知的能力（社会情緒的能力）の発達プロセスを提示
- ◆ 乳児，幼児，児童生徒の社会情緒的コンピテンスを測定

## 「教育の効果に関する研究」（H27～29）の一環としての，国内縦断調査（試行）

- ◆ 教育効果の測定に不可欠な縦断調査の実行可能性を検証
- ◆ 縦断調査の試行
- ◆ H28年度
  - 3歳になる幼児の保護者を対象にした質問紙調査（子供の発達状況，家庭背景など）
- ◆ H29年度
  - H28年度の調査対象者（3歳児の保護者）を追跡調査
  - 幼稚園等を対象にした質問紙調査

8

# OECD

## 国際幼児教育・保育従事者調査①

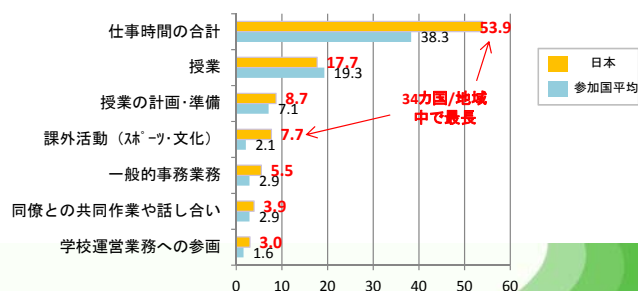
### OECD国際幼児教育・保育従事者調査(International ECEC Staff Survey)

- OECDで**幼児教育・保育施設の保育者に関する国際調査**を新たに実施(2018(平成30)年 本調査)
- 幼児教育・保育版TALIS

<参考> TALIS(国際教員指導環境調査)2013 調査結果から

日本の教員の1週間当たりの勤務時間は最長  
特に課外活動(部活動)にかかる時間が最長

「チーム学校」の議論へ



9

# OECD

## 国際幼児教育・保育従事者調査②

- 調査の目的  
幼児教育・保育の環境, 特にプロセスの質に影響を与える要因について, 国際比較可能なデータを収集 → 各国の政策への示唆
- 参加国(予定)  
日本を含め15か国程度
- 調査対象
  - ・ 全国の国公立の幼稚園・認可保育所・認定こども園から220園(無作為抽出)
  - ・ 抽出された園の長と保育者
- 調査手法  
質問紙調査(園への直接郵送・直接回収)

10

# OECD

## 国際幼児教育・保育従事者調査③

### ● 調査内容

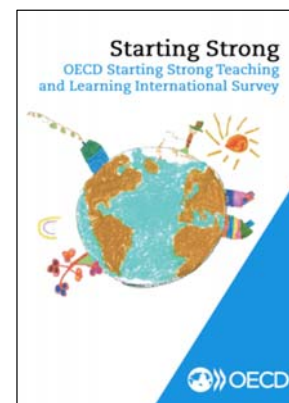
保育実践，保育者の信念，園の環境，勤務条件，職務満足度，保育者の採用・養成・研修 など

### ● 実施スケジュール

平成28年 10月 パイロット調査(終了)

平成29年 6月 予備調査(30園)

平成30年 本調査 (220園)



### ● 国際比較するためには回収率が国際基準を満たすことが必要

ぜひご協力をお願いします

11

## ホームページの充実

### □ 幼児教育研究センターのホームページを開設

[http://www.nier.go.jp/youji\\_kyouiku\\_kenkyuu\\_center/y\\_index.html](http://www.nier.go.jp/youji_kyouiku_kenkyuu_center/y_index.html)

### □ 研究情報の集約と発信に活用

### □ ホームページへの掲載情報

・センターの取組の発信

→ プロジェクト研究，公開シンポジウム

・研究情報

→ 国研報告書，国立幼稚園紀要，接続カリキュラム，行政情報

### □ 情報提供に御協力を！

→ 例) 先進事例，調査データ，イベント情報など

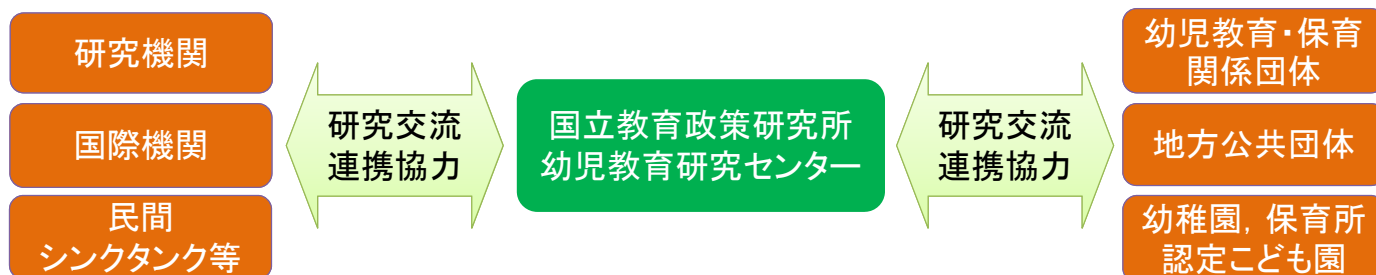
(特に，幼児教育センター，幼児教育アドバイザーの取組)



12

# 研究ネットワークの構築

- 大学等の研究機関, OECD等の国際機関, 地方公共団体, 幼稚園・保育所・認定こども園, 幼児教育・保育関係団体, 民間シンクタンク等との研究ネットワーク構築が重要
- まずは, 幼児教育センターや幼児教育アドバイザーを設置する地方公共団体との連携から



13

## 連携・協力のお問合せは

国立教育政策研究所 幼児教育研究センター

[http://www.nier.go.jp/youji\\_kyouiku\\_kenkyuu\\_center/y\\_index.html](http://www.nier.go.jp/youji_kyouiku_kenkyuu_center/y_index.html)

Tel:03-6733-6752

E-mail:youji@nier.go.jp

14